

箕面市教育大綱実行計画 2025 の中間報告

学校教育 グローバル人材を育みます

① 小・中学校 9年間の授業で英語が話せるまち箕面の実現

- ◆各小・中学校に複数人配置している外国語指導助手を有効に活用し、授業だけでなく日常の様々な場面で子どもたちが生きた英語に触れる機会を増やすことで、子ども達の「英語を使う力」を高める。
- ◆異なる文化の人に対しても、目的・場面・状況に応じて、相手を意識し、自分の考えや気持ちを表現できる力を育てていくため、大阪大学や箕面市国際交流協会とも連携しながら、子ども達の国際交流の機会を増やす。また、オンラインを活用して、外国の子ども達と交流する機会の創出に努める。
- ◆小・中学校 9年間の義務教育課程で、アウトプットの機会を十分に持ち、実践的な英語力を身につけられる英語授業を実施する。

(1) 小・中学校・一貫校における ALT の複数配置と「使える英語」への意識改革

令和7年度の取組

- 全校に複数名の ALT(外国語指導助手)を配置し、英語科担当教員とのチームティーチングによる授業を実施しています。また、行事や休み時間、放課後や委員会活動時等、日常的に英語を使う機会を積極的に提供しています。
- 日頃の英語授業以外にも、1～6年生では週に4回の「グローバルタイム(GT)」、7～9年生では週に1回の「英語コミュニケーション科」での英語活動等、さらなるコミュニケーション力の向上をめざし、子どもたちが英語に触れられる環境を整えています。
- 英語教育スーパーバイザーが授業の質の向上をめざし、学校を訪問して英語科担当教員と ALT に対し指導助言を行っています。
- 小学校英語専科・英語コミュニケーション科担当者連絡会、英語指導力向上研修、グローバルタイム研修、ALT 向け指導力向上研修を定期的実施しています。また、今年度より「Teachers Cafe」を開催し、教員が授業改善に向けて共に考えアイデアを共有する機会を設定しました。
- 箕面市オリジナル指導案集「Enjoy English～Evolution of English in Minoh City ver.10」を作成しました。年度当初に各校に配付し、小中一貫した帯活動・スタートアップカリキュラム・パフォーマンステストの実施等について、重点的に取り組んでいます。

今後の方向性

- ALT 活用の質的向上を図るため、英語科担当教員と ALT がそれぞれの強みを活かした授業づくりに向けて、打ち合わせや研修の充実、効果的な活用事例の共有を進めます。
- 教員・ALT 研修を強化し、子どもたちの英語による発信力を高める授業づくりを推進します。
- ICT やデジタル教材を活用し、個々のレベルや興味に応じた学びを推進します。

(2) アウトプットの活動を通じた「使える英語力」の育成

令和7年度の取組

- フィリピンやニュージーランドハット市の子どもたちとのオンライン国際交流や、大阪大学の留学生との交流を実施し、海外の同世代と英語でコミュニケーションを取る体験を提供しました。

- 校区の約 8 名の ALT を集め、児童生徒が ALT と 1 対 1 で多くコミュニケーションできる「ALT 活用授業」を 9 校で実施しました。引き続き、他校でも実施する予定です。
- 6 年生を対象に、体育館に仮想の町を作り、英語で買い物やゲームをすることで、双方向(インプット・アウトプット)での英語活動をねらいとした「イングリッシュタウン」を 4 校で実施しました。引き続き、年度末までに市内全 6 年生で実施する予定です。

今後の方向性

- 英語活動においても、小中連携を強化し、9 年間を見通した体系的なアウトプット活動を策定し、段階的に発信力を育成します。
- 子どもたちが「英語がわかった」「英語で話せた」「もっと英語を使ってみたい」と感じられるような国際交流の機会を充実させます。
- 授業内外で意欲的に取り組めるアウトプット活動をさらに拡充します。
- これらの取組を通じて、子どもたちが英語を「学ぶ」から「使う」へと意識を変えながら、英語を使ったコミュニケーション能力を身につけられる環境づくりをめざします。
- 7～9 年生では、英語を使ってさまざまな職業を体験する「英語で職場体験」を実施します。
- 全小中学校・小中一貫校の代表が参加する「箕面市イングリッシュエクスペリションコンテスト」を開催し、子どもたちが英語で自己表現する場を設けます。

② 子ども・教職員がICT を使いこなす学校の実現

- ◆各校の情報教育推進担当者がICT 支援員と連携し、校内ICT 研修を行うことで、教職員のICT スキルを高める。また、9年間を見通した情報活用能力系統表をもとに発達段階に応じた授業を行い、子どもたちのICT 活用スキル、プログラミング的思考、情報リテラシーを育てていく。
- ◆子どもたち一人ひとりの個別最適な学びを実現するため、「箕面子どもステップアップ調査」の結果を基に作成された子どもたちの個人カルテ「ダッシュボード」や、個々の課題に取り組むことができる「AIドリル」を積極的に活用していく。
- ◆支援学級在籍児童生徒をはじめとして、一人ひとりに合わせた学びを提供していくためにLITALICO 教育ソフトの活用を行う。

(1)ICT の活用

令和7年度の取組

- 各校の情報教育推進担当者が参加する情報教育研究部会を定期的実施し、4月の部会ではAIドリルの活用に関する研修を開催しました。
- 9年間を見通した情報活用能力系統表を各校の教育指導計画に記載し、各学年の発達段階に応じた、ICT活用スキル、プログラミング的思考、情報リテラシーの育成に取り組みました。
- モン・セリバア企画株式会社と連携し、9月に南小学校、萱野北小学校で「プログラミング出前授業」を実施しました。引き続き11月に箕面小学校、南小学校、萱野小学校、12月にとどろみの森学園で実施する予定です。
- 児童生徒用タブレット端末を更新し、ICT環境の整備を行いました。
- ステップアップ調査のデータを基に、箕面市の児童生徒の傾向に合わせたデータ分析とダッシュボード化を進めました。作成したダッシュボードを各校に展開することで、児童生徒個々の強みや弱みを可視化できるようにしました。
- 学力調査の結果をAIで分析したデータを活用し、児童生徒のタブレットドリルに おすすめの教材として提示できる機能を全校に展開しました。

今後の方向性

- 情報活用能力系統表に記載されている内容について、児童生徒・教職員を対象としたICT活用実態調査アンケートを実施し、市全体の現状や課題を把握し、今後のICT教育に活かします。
- 学習支援ソフト(tomoLinks)やAIドリル等のICTを活用した各校での取組内容を集約し、特に効果的な事例について全校で共有していきます。

(2)LITALICO 教育ソフト

令和7年度の取組

- LITALICO 教育ソフトを活用した教材の実践とアセスメントの効果検証を進め、通級指導教室利用者に活用対象を拡大し、アセスメントシート・個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成しています。
- 通常学級にも活かせる指導・支援の充実を図るための研修会や説明会を開催しました。

今後の方向性

- LITALICO 教育ソフトの効果検証の結果をもとに、教材と研修動画の活用を一層推進し、多くの教職員が日常の授業や支援に活かせるようにしていきます。

③ 複雑多様化する学校現場に対応した学習支援体制の強化

- ◆教育委員会事務局に箕面版スクールロイヤーを配置し、学校でのトラブルについて初期対応の段階から教職員へ助言を行うことのできる体制を構築することで、子どもたちの最善の利益の追求に努める。
- ◆授業支援員や校内教育支援センター支援員の増員等により生徒指導体制を強化し、子ども達の「生きる力」と「つながる力」の育成を図り、いじめ、不登校、暴力、虐待など、多様化・複雑化する学校の課題により丁寧に対応していく。
- ◆小・中学校に在籍する児童生徒のうち、不登校や病気による長期欠席、生活困窮家庭等により、学習支援が必要な者に対し、学生サポーターを派遣し、登校支援や学習支援等を行う。

(1) 箕面版スクールロイヤーの配置

令和7年度の取組

- 弁護士資格を有する職員を、新たにフルタイム職員として雇用し、担当室長(箕面版スクールロイヤー)として教育政策室に配置しました。
- 保育所、幼稚園、認定こども園、学校、教育委員会事務局等に対し、法律相談の流れについて周知しました。

今後の方向性

- 学校や教育委員会の業務で発生した問題への対処方法や法的手続、法律の解釈に関する相談を行っていきます。

(2) 授業支援員、校内教育支援センター支援員の配置

令和7年度の取組

- 小・中学校における生徒指導担当が生徒指導の推進・充実を図るため、15名(小学校7名、中学校8名)の授業支援員を配置し、全小中学校で生徒指導担当の専任化を行いました。
- 全小学校・小中一貫校に校内教育支援センター支援員を配置し、登校しぶりの児童や教室で過ごすことに不安のある児童等への支援を行いました。

今後の方向性

- 子どもたちを取り巻く問題や課題が複雑化・多様化する中で、学校現場で日々起こる様々な事案に迅速かつ丁寧に対応するため、引き続き生徒指導担当者授業支援員を配置し、生徒指導の推進・充実を図ります。
- 校内教育支援センター支援員同士の困り感や成功事例等の情報を交流できる機会を設け、支援の充実を図ります。

(3) 学習支援

令和7年度の取組

- 不登校や病気による長期欠席等により学習支援を必要とする児童生徒を支援するとともに、当該児童が中学校卒業後においても将来の進路を選択する能力を習得する機会を提供するため、学習を中心とした支援を行うサポーターを派遣しました。

※[令和7年9月末時点] ()内は令和6年度実績

| 委託先 | NPO 法人あつとすくーる | 株式会社トライグループ |
|------|-----------------------------|---------------------------|
| 担当校 | 二中校区、五中校区、 六中校区、とどろみの森学園 | 一中校区、三中校区、 四中校区、彩都の丘学園 |
| 利用者数 | 78人(59人) | 87人(72人) |

今後の方向性

- 引き続き各関係機関と連携し、学習支援を実施します。
- 委託業者と連携し、サポーターの人材確保を進めます。

④ 子ども達の体力向上

- ◆中学生の体力向上を目的に、体力向上推進モデル校を選定し、授業研究・授業改善を進め、好事例を市内全域に共有していく。
- ◆水泳授業民間委託事業の令和8年度からの全校展開を視野に、先行実施校(北小学校、豊川北小学校、萱野北小学校、箕面小学校、彩都の丘学園)5校に加え、箕面グリーンロードを通過し民間プール施設まで移動するとどろみの森学園と、民間プール施設まで徒歩で移動する西南小学校を新たに追加し、計7校での効果検証を行っていく。
- ◆生徒にとっての望ましい部活動環境の整備と、教職員の負担軽減を図るため、令和9年度からの部活動地域展開の完全実施を目標に、令和7年度は通年での休日における地域展開の取組を行う。

(1)授業における取組

令和7年度の取組

- 各校の体力向上担当者を対象とした体力向上推進部会を開催し、「体育科年間カリキュラムについて」「校区体育授業公開研究会について」「体力調査の行い方について」「各校の体力向上の取組について」を共有しました。
- 6月にコスモスポーツクラブと連携した「指導研修会」を実施しました。小学校・中学校教諭の計48名が参加し、授業力の向上を図りました。1月に、2回目を実施する予定です。
- 5月に「箕面市体力・運動能力運動習慣調査」を実施しました。
- 6月～7月にかけて、7校の1・2年生に民間プールを活用した水泳指導を実施しました。2学期からは中学年・高学年も実施しました。
(かやの中央スイミングスクール)
北小・箕面小・萱野北小・とどろみの森学園
(taiken スイミングスクール)
豊川北小、彩都の丘学園
(KTV スイミングスクール)
西南小学校

今後の方向性

- 1月に持久力の向上をねらいとしたオンラインなわとび大会を実施します。
- 箕面市体力・運動能力運動習慣調査の結果を基に、体力向上部会で成果と課題を分析し、必要な手立てについて検討していきます。
- 水泳指導業務委託事業を受けている7校の保護者・教職員・児童を対象に随時アンケートを実施しており、保護者・教職員・児童いずれのアンケート結果も良好です。今後は、小学校・小中一貫校の全校拡大に向けて実施し、効果検証を進めていきます。

(2)部活動地域展開に関する取組

令和7年度の取組

- 令和9年度中の部活動の終了及び地域クラブ活動の開始について、生徒及び保護者に広く周知しました。
- 国が実施する、地域クラブ活動への移行に向けた実証事業(委託事業)を活用し、休日における通年での地域クラブ活動のモデル実施を開始しました(令和7年9月末時点で20団体が活動中)。

- 部活動地域展開実行委員会を1回開催し、本市における部活動地域展開に関する方針について議論を深めました。
- 本市の部活動地域展開について、保護者や地域住民を対象とした説明会を9回実施しました。
- 今年度モデル実施を行っている20団体と意見交換を行い、地域クラブ活動における課題の把握に努めました。

今後の方向性

- 部活動が終了するよりも前に、地域クラブの種類や団体数、定員数等の充実を図るため、地域クラブの参入に関するハードルを下げられるような支援を早急に検討します。また、学校施設の予約や利用に関するルール整備も検討していきます。
- 地域クラブとしての認定基準等について、今後国から一定の枠組みが示される予定であることから、国の動きを注視しながら、本市にとって望ましい地域クラブ制度を構築します。
- 引き続き、地域クラブ活動における課題の把握に努めるとともに、生徒への周知方法や体験ルールの整備等、生徒が地域クラブに参加しやすくなるような手法についての検討を行います。

⑤ 小・中学校で分断されない、一貫した教育の実践

- ◆令和6年度から2つの中学校区に配置している小中一貫教育推進コーディネーターのさらなる活用や、「箕面子どもステップアップ調査」の結果から見えた成果と課題を中学校区で共有することにより、9年間を見通した小中一貫教育をさらに進め、学習支援の多様化や教育の質の向上を図っていく。
- ◆箕面市支援教育方針に基づき、児童生徒が適切な学びの場において、9年間でそれぞれの持つ力を最大限に伸ばしていけるように、教員の専門性の向上や支援教育専門員の巡回等、支援教育の充実のための取組を行う。
- ◆大阪青山大学と連携して、より豊かでおいしい低アレルギー献立給食を提供するとともに、給食を生きた教材として活用し、9年間で連続性のある食育を推進する。

(1)小中一貫教育の推進について

令和7年度の取組

- 昨年度から継続して、施設分離型における小中一貫教育推進モデル校区(三中校区・五中校区)を設定し、小中一貫教育推進コーディネーターを市費で配置し、教職員に対しては兼務発令を行い、小中一貫教育を他校区に先駆けて積極的に推進しました。
- 三中校区では新たに国語科・社会科・数学科・理科・音楽科・技術家庭科・保健体育科について9年間を見通したカリキュラムを作成し、五中校区では「言語能力の育成」をめざした前期(1~4年生)・中期(5~7年生)・後期(8・9年生)ブロックにおける具体的な取組について系統表を作成しました。
- 中学校の教員が小学校の授業に入り込む乗り入れ授業を、三中校区では主に算数の授業で、五中校区では主に体育の授業で、週1~2日程度実施しました。中学校教員が小学校(児童・教職員)と関わることで、児童理解を深めたり、校区内の小学校の相違点や共通点を事前におさえておくことで、子どもたちの中学校生活がスムーズに始められるよう準備しています。
- 小中一貫教育推進コーディネーター、小中一貫教育推進担当者、小中一貫教育推進担当管理職を対象とした小中一貫教育推進連絡会を定期的に開催しています。年度当初に作成した小中一貫教育推進計画をもとにそれぞれの校区が行っている小中一貫教育の取組を共有することで小中一貫教育の活性化を図っています。具体的には、小小交流の一環として「リレー大会」を行ったり、中学校の生徒指導主事が小学校に赴き中学校生活について話をし、子どもたちの中学校生活への不安を軽減するなど、取組が拡充されています。
- 令和7年度 小中一貫教育全国サミット in 呉へ事務局及び学校の教員で視察を行いました。視察で得た知見について、第3回小中一貫教育推進連絡会にて報告会を行い、各校の推進担当者と情報共有を行い、小中一貫教育についての理解を深めました。

今後の方向性

- 引き続き、小中一貫教育推進連絡会を開催し、モデル校区以外の具体的な取組等について、情報共有を進めていきます。(12月・2月開催予定)
- モデル校区の効果検証を行い、小中一貫教育推進コーディネーターの未配置校区の配置拡充を検討していきます。
- 各校区で作成している令和7年度小中一貫教育推進計画に基づき取組を進めていきます。

(2)支援教育

令和7年度の取組

- 今年度も引き続き、箕面市支援教育方針に基づき、箕面市支援教育充実検討委員会を開催しました。第1回を6月に実施し、第2回は11月、第3回は2月に開催する予定です。
- 教員を対象とした支援教育研修を10回、支援教育支援員を対象とした研修を2回、保護者を対象とした研修を1回開催し、支援教育への理解促進を図りました。
- 支援教育コーディネーターや支援学級担任等を対象に、府立豊中支援学校(5月)及び府立箕面支援学校(9月)での派遣研修を実施し、専門的な指導方法や支援体制の充実に向けた知見を深めました。
- 通級指導教室の全校配置及び複数配置校の増加に伴い、担当3年目までの教員育成を円滑に進めるため、「通級指導担当者研修」を2回開催しました。また、「通級指導担当者会」を毎月2回開催し、全校の通級指導担当者の指導力向上と指導の質の平準化を図りました。
- 支援教育専門員(人権施策室所属指導主事)が7月から8月にかけて各校を巡回し、学校管理職及び支援教育コーディネーター等と協議を行いました。併せて、課題解決に向けた助言や要請に応じた学校訪問を実施し、支援教育の充実を支援しました。
- 特別支援学校教諭免許を有する教員が異動した学校の支援教育コーディネーターや支援学級担任を対象に、特別支援学校教諭免許の取得費用を助成しました。

今後の方向性

- 令和7年度も、箕面市支援教育充実検討委員会を3回開催し、箕面市支援教育方針の進捗状況を把握するとともに、今後の課題や取組の効果について引き続き検証していきます。
- 教員及び支援教育支援員を対象とした支援教育研修を継続して開催するとともに、管理職を対象とした研修も開催し、支援教育に関する理解の深化と校内体制の充実を図っていきます。

(3)学校給食と食育

令和7年度の取組

- 大阪青山大学の学生が、昔は大阪湾でも漁獲され、大阪の食文化として発展していたクロダイ(チヌ)を活用した献立を考案し、学校給食で提供するため、大学教員や学生、栄養教諭等及び教育委員会栄養士で試作しました。
- 全校で、各学年ごとに行う食育計画をまとめた「食に関する指導の全体計画」を作成し、これに基づいて食育を実施しました。

今後の方向性

- 学生が考案した献立について、栄養価や食材料費等を考慮して内容を検討し、1月に提供予定です。併せて、大阪青山大学の学生による献立にちなんだ食育動画を、給食の時間に全校で配信することも検討しています。
- 引き続き、全校で「食に関する指導の全体計画」に基づいて食育を実施します。
- 毎日の給食に使用された箕面産野菜の情報を校内掲示や給食だよりで発信するとともに、栄養教諭や(一社)箕面市農業公社が連携し、農業者等がゲストティーチャーとして来校する等、農業について学ぶ機会を作ります。

子育て施策 全ての子育て世帯にとって、子育てしやすいまちをめざします

① 真に使い勝手の良い子育て支援施策の展開

- ◆子どもを持つことを希望する夫婦への経済的な負担に対する支援、また、経済的にも身体的にも負担のかかる妊娠期から1歳までの子育てに対する支援を実施することで、妊娠前から子育て期までの切れ目のない支援を強化する。具体的な施策は次のとおり。
 - ・不妊症・不育症の治療に要する費用の一部助成
 - ・妊娠期から1歳の誕生日までの時期における家事・育児を支援するヘルパー派遣
 - ・生後3か月から1歳の誕生日までの時期におけるおむつ・ミルクなどの支給品の配達
- ◆全ての妊産婦・子育て世帯を対象に、伴走型の相談支援、支援が必要な妊産婦・子育て世帯への家庭支援サービスを盛り込んだサポートプランの作成による計画的かつ包括的な支援を行う。
- ◆子どもの豊かな成長のため、4か月児健診の場で、絵本をひらく「楽しい経験」と「絵本」をプレゼントするブックスタートの取組を開始し、親子ともに絵本に親しむきっかけをつくる。

令和7年度の取組

- 不妊症・不育症の治療や検査に要する費用の一部助成「不妊・不育治療費等助成金」、妊娠期から1歳の誕生日までの時期における家事・育児を支援するヘルパー派遣「ぴよぴよサポート事業」、生後3か月から1歳の誕生日までの時期に月1回の見守りを兼ねたおむつなどの子育て用品の配達「見守りおむつ定期便事業」の3事業を令和7年10月から開始しました。
- 妊娠届出時の面接等を通して、支援が必要な母子の早期発見に努め、産後ケア等のサービスの利用を促すことで、子育ての孤独感や不安感の解消に努めました。また、妊婦支援給付金（1回目：妊娠届出後5万円、2回目：子ども（胎児）の数の届出後 子の数×5万円）の給付を行いました。

〈妊娠届出(令和7年4月～9月)〉 414件(転入妊婦含む)

〈産後ケア(令和7年4月～9月)〉

| | 訪問型 | 日帰り型 | 宿泊型 | 集団型 |
|--------|----------|-----------|-----------|------------|
| 回数(人数) | 39回(16人) | 186回(61人) | 143回(52人) | 17回(延べ29人) |

〈妊婦支援給付金(令和7年4月～9月)〉

| | |
|--------------|--------------------------|
| 妊婦支援給付金(1回目) | 351件(うち旧制度：出産応援給付金2件) |
| 妊婦支援給付金(2回目) | 356件(うち旧制度：子育て応援給付金119件) |

- 4か月児健診の場で、親子に絵本の読み聞かせと絵本のプレゼントをするブックスタートの取組を開始しました。

今後の方向性

- 引き続き、支援が必要な妊産婦の早期把握、早期支援に努めます。
- 子育ての孤立感や不安感を解消する施策の検討により、さらに子育てしやすい環境の整備を進めます。

② 待機児童ゼロの実現

- ◆待機児童の解消や一時保育のニーズに応じた受入の実現に向け、民間保育施設における新たな保育士確保と、現に働く保育士の離職防止の双方の観点から、就職支援補助金や生活支援補助金等の保育士確保施策の効果検証や見直しを行い、保育ニーズや民間保育施設の定員確保の状況に応じた保育士確保策を推進する。
- ◆公立園の保育士等についても、今後の保育ニーズを踏まえ計画的な採用を実施する。
- ◆病児・病後児保育について、就労と子育てを両立する保護者が利用したいときにスムーズに利用できるよう、今後もニーズを把握し、よりよい環境整備に努める。

(1) 保育士の確保と離職防止

令和7年度の取組

- 箕面市内の保育士養成施設 2 校を訪問し、保育士課程を学ぶ学生に対して、箕面市内の保育施設への就職及び学生補助金をはじめとする保育士確保対策補助金を積極的に PR しました。
- 各民間保育施設の採用及び離職状況を把握するため、調査を実施しました。
- 公立園の保育士等について、早期に採用試験を実施するとともに、職員数の推移を踏まえた計画的な採用に努めました。
- 保育士の負荷軽減を図るため、民間保育施設が保育ICTシステムを導入する際の経費に対する補助金を新設し、システムの導入を促進しました。

今後の方向性

- 民間保育施設の保育士を対象とし、保育士確保施策の補助金に関するアンケートを実施します。アンケートの回答内容を精査のうえ、既存制度の見直し等、より効果的な施策の実現に繋がります。
- その他、保育士の負荷軽減に繋がる施策の検討を進め、離職防止に繋がります。
- 公立園の保育士等について、今後の認定こども園化や保育ニーズを踏まえ、引き続き計画的な職員採用を実施します。

(2) 病児・病後児保育に関する環境整備

令和7年度の取組

- 病児・病後児保育を利用する保護者の利便性向上を図るため、令和 6 年度末に LoGo フォームでの電子手続による利用登録及び利用料金の QR コード決済を導入し、2 カ所の病後児保育室と1カ所の病児・病後児保育室で運用しています。

今後の方向性

- 病児・病後児保育において、感染症対策等を適切に講じながら、病児・病後児保育室を運営するとともに、引き続き市内民間病児保育室と予約可能枠等の連携を行い、保護者が利用したいタイミングに円滑に利用できるよう努めます。

③ 保育・幼児教育の質の向上

- ◆ 公立幼稚園・保育所の再編について、令和 3 年に策定した新箕面市アウトソーシング計画で「西部及び東部地区の幼稚園施設を活用した 3 歳から 5 歳児の公立認定こども園の整備」、「保育所は 0 歳から 2 歳児の乳児特化型保育園としたうえで、民営化または廃園」とした内容の見直しを行い、保育所施設を活用した「0 歳から 5 歳児を対象とした認定こども園」の整備をめざす（実施時期は、令和 9 年度に桜ヶ丘保育所、令和 10 年度に東保育所）。
- ◆ 市内全ての就学前保育・教育施設等における保育・幼児教育の質向上をめざし、研修会、支援保育・教育に関する研究会及び巡回訪問等を実施する。また、民間園在籍の保育・幼児教育サポーターとともに研修や巡回訪問等を進め、研修等による学びを各園の学びに繋げることをめざす。
- ◆ 令和 6 年度に策定した「架け橋期カリキュラム」を活用し、保育・幼児教育と小学校教育の円滑な接続にかかる取組を進める。

(1) 公立幼稚園・保育所の再編

令和7年度の取組

- 7 月に開催したせいなんこども園設置連絡会、とよかわこども園設置連絡会では、認定こども園の概要や定員などの情報を共有し、保護者・園所・市の三者で意見交換を行いました。
- 公立幼稚園・保育所の再編計画の見直しについて、もみじだより 6 月号に掲載するとともに、説明動画を作成しホームページで公開するなど、広く市民へ周知しました。

今後の方向性

- 令和 9 年度のせいなんこども園開園に向けて、保育環境の改善を目的とした施設改修や、必要な備品・消耗品等の購入を行います。
- 引き続き、認定こども園設置連絡会を開催し、円滑な認定こども園への移行に向け、情報共有や意見交換を行います。

(2) 研修会、幼小接続等の取組

令和7年度の取組

- 包括連携協定を締結している大学の学識経験者等を講師としたさまざまな分野の研修を企画・実施しました（令和 7 年 4 月～9 月で 21 回実施、延べ 1,337 人参加）。
- 市内就学前保育・教育施設の職員が施設種別を越えて集い、ともに高め合う場として、支援保育・教育研究部会を開催しました（令和 7 年 4 月～9 月で 3 回開催、延べ 76 人参加）。
- 子育て支援員研修（平日コース、オンラインコース）を実施しました。
- 就学前保育・教育施設への巡回訪問を実施しました（令和 7 年 4 月～9 月で延べ 168 回実施）。
- 「架け橋期カリキュラム」を活用した取組を市内全地域へ展開することをめざし、小学校・小中一貫校を訪問して事業の趣旨や具体的な取組内容を共有し、意見交換を行いました。また、同カリキュラムを効果的に活用いただくため、就学前保育・教育施設と小学校・小中一貫校を対象に、研修会（活用〔解説〕動画の視聴、幼児教育と学校教育の職員がともに学び互いの教育内容を語り合う機会の設定など、全 3 回）を実施しました。

今後の方向性

- 引き続き、さまざまな分野の研修及び研究部会を実施します。また、次年度に向け、受講後のアンケート

や巡回訪問を通じてニーズ等の把握に努めます。

- 今後も、「架け橋期カリキュラム」を活用し、保育・幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた取組を進めていきます。

① 公共施設の有効活用と生涯学習機会の充実

- ◆郷土資料館において、箕面の各地域の歴史をはじめ箕面ゆかりの人物や文化などを、映像やタッチパネル等デジタル機器も活用した展示により、市民の郷土理解を促進し、魅力ある展示や市民参加型イベントを定期的に開催することで、市民が気軽に郷土の歴史に触れ、郷土愛を育み、新たな箕面の魅力を発見できる場を提供する。また、史跡の保護や見やすい案内看板の設置を進めるとともに、八天石蔵ウォークトライアルなど史跡巡りのイベントを開催することで、市内各地の旧跡や文化財について興味を持っていただく機会を増やす。
- ◆生涯学習講座やシニア塾などを通じて、受講者同士が交流することで、講座後のグループ活動への加入など学びの場の広がりや継続に繋げるとともに、豊かな感性や情操を育むため、親子や子ども向けの生涯学習講座を企画する。また、本年はハット市との国際協力都市提携 30 周年であり、2 月に市訪問団がニュージーランドを訪問したことに引き続いて、5 月に箕面市でニュージーランドフェアを開催するほか、オンライン交流先のトウイグレンスクールの生徒らの受入れを通じて、世界に開かれたまちづくりをめざし、国際交流に関する学びの充実を図る。
- ◆多くの市民が日常的に読書を楽しみ、読書習慣がさらに広がるように取り組む。図書館各館で、絵本の読み聞かせや手遊び、工作遊びなどを体験できるおはなし会を開催し、親子が安心して自由に本を読める交流の場としての空間づくりを進める。また、船場図書館での大学との連携による催しや、西南図書館での映画会、コンサート、ボードゲーム、ブロック遊びなど、親子で楽しめるイベントの開催などにより、図書館が子どもたちにとって学びや交流の場となり、その感受性や共感力を高められるような図書館サービスを提供していく。

(1)郷土資料館の活用

令和7年度の取組

- 郷土資料館にて5月2日～7月6日まで開催した萱野三平生誕 350 年特別展「赤穂事件と萱野三平」には 1,497 人、7月25日～9月7日まで開催した企画展「戦時生活資料展」には 833 人の来館がありました。

今後の方向性

- 郷土資料館では、魅力ある展示や講座・イベントの開催に努め、郷土学習の機会を広く提供していきます。

(2)生涯学習講座の活用

令和7年度の取組

- 生涯学習講座(春/夏/秋の講座)及びシニア塾の募集を行いました。生涯学習講座は、計21講座中14講座において定員を上回る応募がありました。シニア塾については、計 30 コース中 28 コースにおいて、定員を上回る応募がありました。
- 生涯学習講座では、受講者が協力して課題に取り組む薬膳デザート作り、園芸教室などのワークショップ形式の講座や、同じメンバーで学びを深めながら繰り返し参加する通期講座を企画し、受講者同士が交流できる機会を設けました。また、主に夏休み期間中の小学生を対象とした「こどもプロジェクト」では、図書館を利用した謎解きゲームや木工教室を開催しました。シニア塾では、市内各種団体から講師を迎え

る講座も開催し、受講後の学びの場を継続できる機会を設けました。

今後の方向性

- 講座の申し込み状況や受講者のアンケート結果を次年度以降の講座内容に活かします。
- シニア塾受講がさらなる学びを深めるためのきっかけとなり、受講者同士の交流を促すことにつながるような講座を企画していきます。また大阪大学等と連携した講座を引き続き企画していきます。

(3)国際交流の活性化

令和7年度の取組

- 箕面市ハット市国際協力都市提携 30 周年記念事業として、ニュージーランド・ハット市からハット市長を含む訪問団 11 名が本市を訪問しました。また、5 月 23 日に記念式典を、5 月 24 日にスペシャルイベント「ニュージーランドフェア」を開催しました。参加者は記念式典が 87 名、ニュージーランドフェアは延 700 名でした。
- ニュージーランド・ハット市のトウイグレンスクールと、メキシコ・クエルナバカ市のモロス大学からの研修生受け入れに向けた実行委員会を開催しました。トウイグレンスクールからは 9 月 17 日～26 日の間学生 7 名を受け入れ、学生達はホストファミリーとの交流や箕面市の自然や文化を体験しました。9 月 18 日・19 日には彩都の丘学園を訪問し、英語や体育、図工などの授業に参加し同年代の児童らと国際交流を行いました。また、モロス大学からは研修生 4 名を受け入れ、10 月 8 日～28 日の間、研修生達はホストファミリーとの交流や、日本語の勉強に励みました。

今後の方向性

- ニュージーランド・ハット市とのオンラインツアーの開催に向けて、準備を進めます。

(4)図書館サービスの充実

令和7年度の取組

- 「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」について、電子図書館でノミネート作品特集を行うほか、豊能町立図書館においても「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」のノミネート作品展示・貸出に協力いただきました。
- 船場図書館をさらに地域の市民に親しまれる図書館とするため、乳幼児向けの「はじめてのおはなしかい」や各種テーマに沿った図書展示を行いました。
- 「第 43 回大阪大学夏まつり」の一環として、阪大生による企画「本で開こう！世界の扉」を開催しました。（参加者 43 人）

- 〈図書館相互利用実績(令和 7 年 4 月～6 月)〉 ※()は令和 6 年度同月の利用実績

| | 貸出冊数 | 貸出者数 |
|---------------------|----------------------|----------------------|
| 豊能町民が 箕面市立図書館を利用 | 807 冊 (330 冊) | 188 人 (88 人) |
| 箕面市民が 豊能町立図書館を利用 | 8,707 冊 (7,323 冊) | 2,112 人 (1,732 人) |

- 図書館システム更新と機器入れ替え作業に伴い、10 月 14 日から 10 月 23 日まで休館しました。（西南図書館は 10 月 14 日から 11 月 13 日まで）

今後の方向性

- 子どもから高齢のかたまで、誰もが利用しやすい施設として、本に親しむ機会となる行事や本のテーマ展

示、親子や保護者同士の居場所となる空間づくりなど様々な取組をしながら、より親しみやすい図書館となるよう図書館サービスの充実を図ります。

- 船場図書館においては、さらなる利用促進を図るため、大阪大学との連携講座や子どもを対象としたイベントなどを引き続き実施します。

② 箕面市アートプロジェクトの推進

- ◆ 箕面市アートプロジェクトとして、多くの公共施設を活用し、館内にアート作品を展示するほか、ガラス扉やチョークボードを使ったアート制作などにより、日常的にアートを感じられ、表情豊かなアートに溢れたまちを創出する。
- ◆ 箕面駅前、桜井駅前、箕面船場阪大前駅の野外ステージ等を活用し、学生や市民団体等へ発表の場を開放して利用してもらうことにより、まちなかで音楽やダンスを楽しめる場を提供するなど、子ども達への情操教育の充実を図るとともに、文化活動をより身近に感じられる環境を創出する。
- ◆ 豊かな市民文化を育み、個性あふれる生涯学習社会の実現をめざす箕面市民展や、多様な人々が交わり創造する協奏のまちづくりをめざす箕面アートフェスの開催を通じ、プロのアーティストや作品などと触れられる場を提供するなど、アートプロジェクトの推進を図る。

アートプロジェクトの推進

令和7年度の取組

- 市所蔵の美術作品や新たに借用したアート作品などを、これまでに市内公共施設等に 113 点展示しました。
- 本館 1 階に、箕面学園高等学校美術コースの生徒によるウィンドウアート第 2、3 弾を実施しました。
- 10 月 25 日～11 月 2 日に第 68 回箕面市民展を開催しました。
- 「箕面アートフェス 2025～多様な人々が交わり創造する協奏のまちづくり～」として、好文学園女子高等学校黒板アートチーム元祖の生徒の指導による「みんなの黒板アートワークショップ」の開催に向け、市内在住・在学の小・中・高校生を対象に 8 月に募集を行い、20 名の参加申込を受け付けました。ワークショップを 5 回開催し、完成作品は、市民展に展示しました。
- 「みんなのステージ」として、箕面駅前、桜井駅前、箕面船場阪大前駅の野外ステージを市民に利用していただき、ステージを 6 回開催し 7 組のアーティストが出演しました。

今後の方向性

- 市民展の最優秀作品を市内公共施設に展示します。
- 「みんなのステージ」の利用者を引き続き募集し、ステージが開催できるよう調整を進めます。

③ スポーツの機会の充実

- ◆ 幼児から若者、高齢者に至るまで、すべての世代がスポーツに親しむ機会を充実させるため、運動施設の整備や身近な公園での健康遊具の設置を行う。また、サントリーサンバーズ大阪、ガンバ大阪、大阪エヴェッサ、岩谷産業陸上競技部などの本市にゆかりのあるスポーツチームと連携し、箕面スポーツカーニバルなどのイベントでトップアスリートによる指導の機会を創出したり、ガンバ大阪公式戦のパブリックビューイングを開催するなど、スポーツに接する機会となるイベントの実施・検討を図る。
- ◆ 令和 8 年度に開業予定で、小学校水泳授業の民間委託の受け皿となり、かつ市民利用も可能な室内温水プールにおいては、DBO 事業者の公募を通じて民間事業者の創意工夫を積極的に取り入れ、子どもの体力向上だけでなく、高齢者を含むすべての市民の健康増進に資する施設の整備をめざし、建設工事に着手する。また、温水プールの運営方法について、事業者と協議を進める。
- ◆ 令和 6 年度に開業したスケートボードパークでは、未経験者が参加しやすいスケートボードの体験会を開催し、親しみを持ってもらうことで、今後の運動習慣の形成や利用促進に繋げる。

(1) スポーツに親しむ機会となるイベントの実施

令和7年度の取組

- ガンバ大阪、オリックス・バファローズと連携し、箕面市民応援デーを開催することで、市民がスポーツに親しむ機会を設けました。
- ガンバ大阪パブリックビューイングを開催しました。
- 大阪エヴェッサとの包括連携協定を締結しました。
- 箕面スポーツカーニバルにおいて岩谷産業陸上競技部と協同したプログラムを実施しました。

今後の方向性

- サントリーサンバーズ大阪、大阪エヴェッサの市民応援デーの実現に向けた調整を行います。

(2) 室内温水プールの開業に向けて

令和7年度の取組

- 箕面市民温水プール整備運営事業公募型プロポーザル選定会議を実施し、設計・施工・維持管理運営を担うDBO 事業者グループを選定し、設計委託業務及び工事請負業務にかかる契約を締結しました。

今後の方向性

- DBO 事業者グループと緊密に連携しながら、公共プールと学校プールの機能を集約した室内温水プール施設の整備に関する各種事務を進めます。

(3) 箕面スケートボードパークの利用促進

令和7年度の取組

- 6 月に、小学生までを対象としたスケートボード体験会を開催しました。引き続き 11 月・12 月に体験会を開催する予定です。

今後の方向性

- 今後は指定管理者の自主事業として体験会や教室等を実施できるよう調整し、利用促進を図ります。